

Title	<報告>佐川弥之助教授の新任に当って
Author(s)	前川, 暢夫
Citation	京都大学結核胸部疾患研究所紀要 (1972), 5(1): 89-89
Issue Date	1972-01-31
URL	http://hdl.handle.net/2433/52324
Right	
Type	Departmental Bulletin Paper
Textversion	publisher

佐川 弥之助 教授の新任に当って

前 川 暢 夫

かねてから当研究所の具体的目標として、所内の意志を集めて概算要求を通じて要求して来た臨床肺生理学部門の新設が認められたので、昭和46年4月15日内規に従って全教官の集まりの席上同部門教授候補者の選考を開始することが所長から発議された。

選考委員の互選によって委員長に指名されたので以下簡単に選考の経過を記して置く。

新部門の内容等に関しては佐川新教授の所文によって頂きたい。

4月27日、第1回の選考委員会で結論を得た選考方針は「肺生理学を専攻している人で臨床的研究に能力を有する人を選びたい」ということで、教官会議に報告され所内からの推せんをまず求めた。所内からは佐川弥之助博士に対する推せん状が寺松教授より提出されたのみであったので、選考委員会は所外からも適任者があれば推せんを得たいと考えて、東北大学医学部内科、抗酸菌病研究所、東京大学医科学研究所、慶応大学医学部内科、広島大学医学部内科、

大阪府立成人病センター、九州大学胸部疾患研究所等の関連分野に業績の多い全国7施設に対して所長名をもって推せん方を依頼した。しかしながら所定の期日迄に推せんの申出はなかったので、選考委員会としては所外から人を求めるための努力を終えて、推せんされた候補者が新設部門の教授として適当であるかどうかという点に議論を集中したわけである。このことは裏返せば佐川弥之助博士の研究業績、臨床手腕、ならびに人柄のすべてについて所外の評価も非常に高いということの証左にもなると考えられる。(5月20日第3回選考委員会)

新部門成立の条件として当面胸部外科学部門の助手2名の定員振替によるものであるだけに当研究所の臨床全体から考えても種々の困難が予想される面があるが、これらを押切って佐川弥之助新教授が一層精進されることを祈ってやまない次第である。(5月27日教授会にて決定され6月16日付発令)